

かじまばし

# 鹿島橋

中部地方の  
選奨土木遺産

所在地：静岡県浜松市 竣工年：1937（昭和12）年  
管理者：浜松市

平成25年度登録

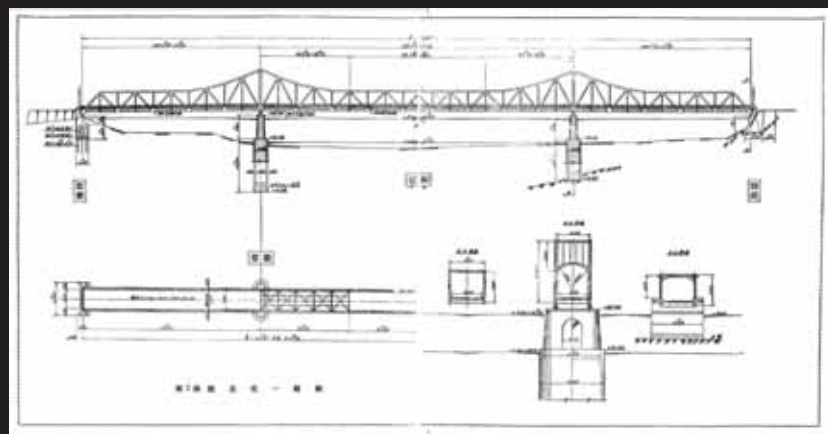
認定理由：現存する戦前の最大スパンの上曲弦カンチレバートラスで、遠州南北の要衝にあり、いまでも天竜路の入り口として役割を果たす橋である。



上流左岸から眺める鹿島橋



カンチレバートラスの主塔部分



鹿島橋一般図（『土木建築工事画報』1937.8）



鹿島橋架設位置（同左）



部材の銘板が示す製造元  
「昭和十一年  
株式会社浅野造船所製作  
材料 ICL 八幡製鉄所  
飯 浅野造船所  
銚 浅野小倉製鋼所」

天龍川が分厚い山間を延々と縫って遂に広い遠江の平野へ出るところが、鹿島橋の架橋位置である。ここは、必然的に古くから北遠における交通の要衝であった。またここは山地より運び出される木材の流下地として室町時代から知られ、江戸時代には番所が設けられて幕府によって監督された。街道の渡河は、「今津の渡し」という渡船によっていた。

1905（明治38）年に架けられた橋は、すぐに激流に流されてしまう。1911（明治44）年には吊橋が架けられるが、20年もすると増加する交通に比して幅員が狭く、また老朽が著しくなった。1935（昭和10）年に、県による改築が計画された。

新たなゲルバートラス（カンチレバートラス）橋を架ける計画は、この厳しい立地条件において頑丈な下部工を必要とした。請負った中村竹次郎の奮闘の様子は、甥により記録されている。これによれば、コンクリートの井筒を沈めながら中を掘削していく作業は、岩盤や未曾有の大水害に阻まれて困難を極めるものだった。これらを乗り越え、険しい風景の中に凛と建つ優美な鋼橋は実現した。



現状では、鹿島橋を含め周辺において標識・看板が氾濫してしまっている。品格のある周辺環境整備が望まれる。

